畑作技術情報

発行　令和５年7月29日
第　７　号
たいせつ農業協同組合
営農部　農産販売課
本所　営農センター　57-2357
支所　営農センター　87-4111

大豆のマメシンクイガ防除を徹底しましょう！

　マメシンクイガは近年多発傾向が続いており、適切な防除が行われていないほ場では甚大な被害を受けています。適期防除が最も重要で幼虫が一旦莢に侵入すると防除効果が極めて低くなります。

成虫の飛来始めを確認し、莢への侵入前に下表を参考に薬剤散布を行いましょう。

近年、アブラムシ類の発生により吸汁された葉が、べと病のような姿になるほ場が散見されます。大豆の葉裏等を見てアブラムシ類の発生している場合は、１回目に合ピレ剤か、有機リン系剤を使用してください。

写真　成虫と幼虫･被害粒

1）マメシンクイガは**「莢伸長始め」**（およそ半数の株に２～３㎝に達した莢が着いた時期）から産卵します。**開花始めから約７日後に「莢伸長始め」**となり、上川中央部の**「莢伸長始め」**は、７月下旬～８月上旬ですが、年次・ほ場により生育の差がありますので、ほ場毎の生育を確認してください。
2）「莢伸長始め」に達したら速やかに一回目の防除を実施して下さい。
3）　一回目の防除時期が遅れると防除効果が劣り、被害が大きくなります。

「マメシンクイガ」防除薬剤

	薬剤系	薬剤名	希釈倍率	10a 当薬量	使用時期/回数
１回目(莢伸長始めから７日目頃)	合ピレ剤	トレボン乳剤	1,000	100ml	収穫 14 日前/2 回
	ジアミド系	プレバソンＦＬ５	4,000	25ml	収穫 ７ 日前/2 回
２回目(1 回目防除から10 日後)	有機リン系	エルサン乳剤	1,000	100ml	収穫 ７ 日前/2 回
		トクチオン乳剤	1,000	100ml	収穫 30 日前/3 回

※10a 当りの水量はすべて 100ℓ

農作業事故・熱中症に十分気を付けましょう！